

その一 「ふれあい親子フェスティバル」

訪 問 日 平成29年10月21日（土）
 訪問場所 東浅香山小学校
 主 催 者 東浅香山校区まちづくり協議会
 訪 問 者 林 美輝副議長、鶴山 剛委員（紹介者として、山口 典子委員）

■ 概 要

「ふれあい親子フェスティバル」とは

- ふれあい親子フェスティバルは、東浅香山校区の「全全全世代のまちづくり」をめざすものです。
- 小学校、地域、そして企業や大学の連携によって、企業や地域のさまざまな団体による試食や軽食コーナーや各種遊びや学びに関する多くのブースが無料で利用できるようになっており、一人ひとりの人権を尊重し誰もが参加できるような工夫がなされている取り組みです。
- このようなふれあい活動そのものが全世代それぞれにとって、育ちあい、そして安全安心なまちづくりのための学びになっているように思えました。



校門に設置された看板には「全全全世代のまちづくり」とあり、目的がしっかりと表現されていました。



広い体育館にさまざまなブースが用意され、たくさんの楽しみや学び方ができるようになっていました。

東浅香山校区
ふれあい親子フェスティバル

美食・ロボット・
占いによる
全世代のまちづくり

協力 大阪工業大学
(学校法人常翔学園)

14:30~体育館
大抽選会開催!
(商品券が当たる!)

商品券 1万円×3本、5千円×5本
3千円×10本
その他、特別賞あり

開催日時 平成29年 小雨決行
10月21日(土)
9:30~15:00

場 所 東浅香山小学校

運動場他

食のふれあいゾーン(無料、試食・体験)
キッズマート(商品販売、販売体験は事前予約要)
軽食コーナー(無料)
(焼きそば、たこ焼き、フランクフルト、ポップコーン)
ミニSL乗車(無料)
あてものくじ(防災訓練参加要)
スーパーボールすくい・射的
防災訓練(AED講習・消火訓練)
缶バッジ製作
親子料理教室(無料、事前予約要)

体育館

ステージイベント
9:30 東浅香山小学校生による合唱
10:00 東浅香山こども園児によるダンス
13:30 長尾中学校吹奏楽部による演奏

ロボット体験
占いコーナー
身体測定コーナー
高齢者相談コーナー
作品展(小学校&こども園児)

自治会に加入しましょう! 主催
東浅香山校区まちづくり協議会

ふれあい親子フェスティバルのポスターです。学校のホームページだけでなく、地域の校区自治連合会の掲示板に貼られ広く周知されていました。

「東浅香山校区まちづくり協議会」とは

○東浅香山校区まちづくり協議会は、自主的な組織活動団体であるという本旨をふまえ、校区内における各種団体間の相互の親睦と連携を図り、地域的な活動を行うことにより、地域の課題を自らで主体的・自己完結的に解決を図るよう努めるとともに、良好な地域社会の形成及び維持に寄与することを目的とする市民団体です。

○主に、次の活動を行っています。

- 地域における課題を自らで主体的に解決するための事業の企画立案、実施に関すること。
- 地域における自主的活動の促進に必要な協議と各種団体間相互の連絡、協調交流に関すること。

○校区自治連合会、交通指導委員会、防犯委員会、老人会、女性団体協議会、ボランティアグループ東浅香山、青少年指導委員会、東浅香山小学校PTAや東浅香山小学校から構成され、毎年10月に校区最大のイベントであるふれあい親子フェスティバルを開催しています。

■ 「堺が考える社会教育」の観点からみると

ともに学んだり、教えたりするためには

堺市社会教育委員会議提言書 13頁

○東浅香山校区まちづくり協議会がふれあい親子フェスティバルのなかで、高齢者相談コーナーや子どもの

体験学習など、担い手や参加者が地域のさまざまな課題・目的に気づき、催物で表わすことで地域住民とふれあい親子フェスティバルの参加者と分かちあい、全世代にとっての安全安心なまちづくりに向けた活動が行われていました。

例えばこんなこと【気づく】

○全世代にとっての安全安心なまちづくりに向け、さまざまな世代のみなさんを念頭に置いたふれあい親子フェスティバルの企画、実施、そして参加を通して、一人ひとりの人権を大切に、多様な価値観の違いや地域の課題に気づくことができるようになっていないでしょうか。

○毎年新しい内容にすることで、社会のトレンドなどにも敏感になり、その変化に気づく機会にもなるのではないのでしょうか。

例えばこんなこと【表わす】

○それぞれの企画を行うなかで、その企画を催し物や各ブースなどの実践という形で分かりやすく表わしています。

○学校園の正課と連動した作品発表や、各種公演が学びの成果を見事に表わしていると思います。

例えばこんなこと【分かちあう】

○事前に学校のホームページでもふれあい親子フェスティバルの案内がなされ、この場に数千人が集まること自体が地域の多くの人と喜びを分かちあうことになっていると思います。

○広い体育館や校舎を利用して、ロボット体験、AED講習、キッズマートや占いコーナーなどのブースで全世代が興味を持つイベントや体験コーナーでさまざまな地域課題や価値観の違いを分かちあっていました。

堺らしさ

堺市社会教育委員会議提言書 17頁

○ふれあい親子フェスティバルのなかに、「人権」の観点からあいさつ運動を大事にすることや毎年同じことをするのではなく、更新していくという「進取の精神」を持った「先人」の観点から見て、堺らしさが根付いていると考えることができました。

例えばこんなこと【人権】

○主催者側が意図的に取り組んでいることですが、さまざまな学び・体験、試食や軽食が無料で利用できるように工夫されていることで、誰もが参加でき、誰も取り残されない堺ならではの取組だと言えます。

○かつての新興住宅地で大きな祭りがなく住民同士の交流が比較的少ない地区で、校区自治連合会長が、まずはあいさつ運動をして子どもたちの見守りと通勤する大人へも声かけをするところから、人を大事にするようにしたと話されていました。

○ふれあい親子フェスティバルも子どもを核としながら身近な取組を重ね、人と人との結びつきのなかで人権を大切にしようとしてされているのがよくわかりました。

例えばこんなこと【先人】

○毎年同じことをするのではなく、更新していくという校区自治連合会長の話（平成29年度は「占い」など）にも深く感銘を受けました。これは、堺の先人の「進取の精神」に通じるところがあると考えています。

○ふれあい親子フェスティバルは、安全安心なまちづくりという地域の課題に対して自ら解決するという
中世の自治都市に裏付けられた住民自治の精神がしっかり根付いています。



教室を利用した占いコーナーです。地域で活躍されている方に協力を依頼されたそうです。

さまざまな「つながり」

堺市社会教育委員会議提言書 21頁

○全世代が興味を持てるよう、地域の企業、大学や各団体等さまざまな分野から担い手が関わっていました。場所もたくさんの担い手や参加者を収容できるぐらい広く、地域の核となっている、また地域に開かれた小学校を活用し、幼児や児童の作品、中学生の吹奏楽や大阪工業大学からのロボット技術などさまざまな物事を活用していました。

例えばこんなこと【担い手】

○東浅香山小学校の合唱、東浅香山こども園のダンス、長尾中学校吹奏楽部の演奏など、子どもたちだけでなく、その保護者や祖父母世代も来るため、全世代がつながりやすいイベントになっています。

○高齢者世代にとっても、介護事業者による高齢者相談コーナーがあり、社会的資源（ふれあい喫茶など）とつながりやすくなっています。

○地元企業から高齢者相談コーナー、地元スーパーマーケットからキッズマート、大阪工業大学からロボット体験、地域団体から軽食コーナーなど、さまざまな担い手による取組がありました。

○今の校長先生が来てからの取組で3年目となります（それまでは夏祭りがあったそうです）。毎月の校区自治連合会の定例会に学校も参加し、学校の様子も地域に伝え、地域に開かれた信頼される学校づくりをさらに進めることで、お互いの取組を共有することが連携をしていく上で大切だと思いました。

○学校側の理解もあり、学校の教職員のほとんどがふれあい親子フェスティバルに参加していることは、自分たちの活躍や様子を教職員に認めてもらえる子どもたちにとっても大切な事柄だと思います。教職員にとっても地域の理解が一層深まる大切な機会になるように思えます。

○教職員のワークライフバランスにも配慮しながら、勤務体系に無理なく持続可能なマネジメントの下で、地域の中心として、子どもから大人までみんなで作りあげ、お互いに育ちあえる学校であって欲しいと思います。

例えばこんなこと【場所・空間】

○学校が地域の中心として機能しやすくなっていると思います。校区自治連合会と小学校との関係は密接で、多くの場合、お互いに「私たちの学校」「私たちの地域」です。子どもたちに心のふるさとをと願う多くの大人の思いを一番に具現化できる「つながり」が小学校を使った地域行事であることを実感できました。

○運動場を利用して軽食コーナーなどを実施する予定でしたが、当日は雨であったため、場所を運動場から教室に変更してミニSL以外の予定の催しをしていました。学校の教職員の協力もあり、学校という空間を上手に活用していました。

○校長のご協力もあり、子どもたちや地域住民に親しみのある学校の運動場、体育館や教室を上手に活用していました。

例えばこんなこと【物事】

○こども園の子ども作品、学校での絵画、五七五の俳句など、正課活動での成果が地域活動で共有されています。

○中学校の吹奏楽発表もあって、次の年代・縦への「つながり」も感じられました。



子どもから高齢者まで、全世代が体育館で楽しく学び、つながっていました。

「つながり」の質

堺市社会教育委員会議提言書 24頁

○校区自治連合会長や校長の自ら進んでいくリーダーシップにより、企業、大学や女性団体などをつなぎ、外に開かれ、全世代が楽しみながら「つながり」を作ることができていました。

例えばこんなこと【違いを認めあう「つながり」】

○全世代が、一緒に楽しみ、違いを認めながらつながりあうことができていると思います。

例えばこんなこと【外に開かれている「つながり」】

○地域の協力と校長のリーダーシップによって、学校が企業、大学や女性団体などの外部とつながっていることも、これからの学校園を考える上でのモデルケースになると思いました。

例えばこんなこと【自ら進んでいく「つながり」】

○ロボット体験については、会長自ら大阪工業大学を訪れ、協力依頼されたそうです。

○子どもたちも、キッズマート店員への申込みを自ら率先してやっているそうです。当日も生き生きと商品販売の体験活動をしていました。

■ つながるといいな

○近隣の関西大学に体育系の学部があるので、運動的なイベントも取り入れて一緒に実施したり、その他留学生などが多くいる大学や、介護事業施設などで外国から来ている介護福祉士候補者の力を借りて多様な世代が交流できるような国際交流もあれば、さらに楽しくなるかもしれないと思いました。

○これから催しが回を重ねると、楽しんだ児童が中学校・高校へと進んでいきます。そんなOB・OGたちが活躍する場があったらいいかもしれません。子どもたちにとって直接憧れを抱ける先輩が身近にいることは、次につながっていくと思います。

■ 訪問して感じたこと

○東浅香山校区自治連合会を中心とした朝の子どもたちの登下校の見守り活動では、子どもだけでなく通勤途中の大人にも挨拶をするように心がけているとの話で、車を運転する地域の人たちも挨拶してくれるそうです。見守り活動が核となって、地域がつながりあっているようにも思えました。

○地域の見守り活動にPTAも徐々に参加するようになり、保護者の学校・地域活動への意識も変わってきたエピソードも、保護者が行政あるいは社会的サービスを楽しむだけでなく、サービス提供の担い手にもなっていく過程を考える上で重要な話だと思いました。

○ふれあい親子フェスティバル当日はあいにくの雨天でしたが、地域のみなさんや学校の教職員のこの催しに期待する思いが詰まっていたように感じました。学校内外の誘導をはじめ、見えないところで働く方がいてこそ「安心」「安全」が保たれた時間や空間ができ、明るく楽しそうに遊び学ぶ子どもたちの姿を見ることができました。地域をより良くしようと取り組む大人の思いが、きっと子どもの心に通じて「つながり」の温かさを感じられた一日を過ごしたのだと確信します。

■ 主催者からのメッセージ

社会教育って？

○社会教育は、決して難しいことではありません。人と人のつながりを広げ、人生を豊かにすることを目的としています。私たちは、ふれあい親子フェスティバルを通じて、同じ地域で暮らすあらゆる世代の方々の「つながり」を広げる役目を果たしています。

「つながり」を広げるって？

○「つながり」を広げるとは、まずたくさんの人と知り合って交流を深めること、そして困ったときには共に助け合って支えあう関係を築くことであると考えます。災害など有事の際には、地域の「つながり」が非常に大切になってくると思います。

訪問してみたいかがですか？

○今年も「ふれあい親子フェスティバル」を開催する予定です。
社会教育としておすすめです！

■社会教育委員会議の活動や提言書については、堺市ホームページで公開しています。



「堺市」「社会教育」

検索

